

## 『大学生活についての報告』

建築科 一年生

私は自身の手で建築を設計する建築家に憧れ、東京理科大学へと進学した。建築家になるためには大学での学業成績はもちろん、課題作品への評価が重要となる。私は今年度、大学の講義へもれなく出席し、一つの単位も落とすことなく学部平均に比べ秀でた成績を残すことができた。また、同学年百四十人中八人が選ばれる優秀作品にも選考された。

このように目標に向け励んだが、私は東京芸術大学へ入り直し、一から建築を学び直す決断をした。ここからはこの進路変更の理由を述べたいと思う。

東京芸術大学は、中学生の頃から憧れを抱いていたが、理数系科目も学びたいという思いから、今まで受験を考えなかった。だが、大学で建築を学ぶにつれ、「建築に携わる者」ではなく、「建築家」として自身で設計を手掛けたという思いが強くなった。その時に東京芸術大学の建築科について深く知る機会を得た。東京芸術大学では、一学年十五人に対し、著名な建築家である専任の教員九名が一人一人の課題に指導をおこない、大学自身は建築家の輩出を理念に掲げている。その他の魅力的な点にも惹かれ、受験を決意した。

東京芸術大学の入試では、共通テストに加え、二日間の十時間にわたる実技試験が課される。そのため、私は夏から美術予備校へ通い始めた。そこでは、現役の芸大生が講師を務めており、自分とさほど歳の離れない学生が行う作品への講評や周りの受験生のレベルの高さに圧倒された。こんな人達と共に学べる芸大への興味は更に増した。二浪や三浪が当たり前の芸大受験において、私に残された期間はあまりに短かったが、建築家になりたいという思いを糧にし、直前一ヶ月間毎日十時間ほど、寝る間を惜しみ特訓を重ねた。その甲斐もあり、高い倍率を潜り抜け、合格を掴むことができた。この一ヶ月で得たものはたとえ合格できなかったとしても、自分の大きな財産になったと思う。

当初、東京理科大学で建築家を目指す決めていたが、本当に自分のやりたいことと向き合った結果、進路変更に至った。その決断を寛容に受け入れてくれた両親や、応援していただいた方々への感謝を忘れず、今年度理科大で得たものや芸大の恵まれた環境を活かし、来年度も自分の目標に向け全力を尽くしたい。